三島市　(通巻第96号)

# 郷土資料館だより

Vol.32. No.3
2010.3.15

## 企画展 没後 玄峰老大師50年 宋淵老大師27年 墨蹟展 開催中

●開催期間　平成22年3月9日(火) ～ 平成22年6月6日(日)
●会　　場　郷土資料館1階展示室　●主　　催　三島市教育委員会・三島市郷土資料館

三島市沢地にあります龍澤寺は、臨済宗中興の祖とされる白隠禅師(1685～1768)の開山によるもので、白隠禅師を筆頭に、東嶺禅師、星定老師、玄峰老師、宋淵老師と数々の名僧を世に送り出してきました。本展は、山本玄峰老師没後50年とその嗣法中川宋淵老師没後27年を記念して開催します。

### ◇「白隠の再来」　山本玄峰老師(1866～1961)

山本玄峰老師は、慶応2年(1866)和歌山県田辺市に生まれ、生後間もなく岡本家の養子となり、芳吉と名付けられます。19歳の時、失明の不幸に見舞われ、四国遍路を発心。24歳、7回目の霊場巡拝の途中、高知県三十三番札所雪蹊寺で行き倒れになり、この時の雪蹊寺住職山本太玄和尚と出会い仏門に入ります。26歳の頃より雲水として、全国で修行を重ね、白隠禅師ゆかりの龍澤寺や松蔭寺(沼津市)を始めとする全国各地の寺を復興し、やがて「白隠の再来」と称されるほどの高僧となります。

### ◇「俳禅一如」　中川宋淵老師(1907～1984)

中川宋淵老師は、明治40年(1907)山口県岩国市生まれ、名は基。昭和2年(1927)東京帝国大学(現・東京大学)文学部国文学科に入学。大学のクラブ活動で禅に触れ、昭和6年(1931)山梨県向嶽寺の勝部敬学老師に就き得度、昭和10年(1935)龍澤寺に転錫し、玄峰老師の嗣法として昭和26年(1951)龍澤寺第10世として晋山します。

宋淵老師は高校時代から俳句を始め、俳誌『雲母』の主宰・飯田蛇笏に入門します。しかしながら「おまえさんは俳人になってはいかん」「私は俳人ではありませぬ」という玄峰老師との商量にある如く、俳句と禅、禅と俳句の区別をしない俳禅一如の世界を形成します。

**写真上「幽光」玄峰老師筆**

深遠微妙を表現する中世芸道の理念「幽玄」にも通じると思われるこの語は、まさに心眼で捉えた深遠なる世界のわずかな光を表しており、7度目の四国遍路でわずかに見えるようになった感謝の意が書に込められているようである。

**写真下「禅堂の中にも舞ひぬタもみち」宋淵老師筆**

全山のもみじが折からの風で舞う。その一ひら二ひらが寂然たる禅堂の中にも舞い入って来る。夕日に照らされたもみじは尚一層紅く輝きを増し、禅堂のモノトーンが更にそれを強調する、そんな絵画にも似たこの句の中に動と静が巧みに表現されている。

第13回　富士・沼津・三島　3市博物館共同企画展

# レール&ロード　富士・沼津・三島の交通ものがたり　開催報告

●開催期間　平成21年12月6日(日)～平成22年2月21日(日)

今回の展示は、「交通」をテーマに、鉄道、道路、これにまつわる人々の暮らしや観光について紹介しました。また、株式会社桃中軒(本社・沼津市)の協力を得て、三島や沼津の駅弁を併せて展示紹介しました。伊豆箱根鉄道株式会社及び東海鉄道ＯＢ会三島支部の皆様方からは貴重な資料の数々をご提供いただき、ボリューム感のある展示となりました。会場では伊豆箱根鉄道の電車座席シートを展示し、座りながら記念撮影ができるコーナーを設けましたところ、親子連れの方々などに人気を博し、家族で楽しく撮影している風景などが見られました。

今回は富士・沼津・三島の３市にまたがる歴史を紹介しましたが、将来的には三島独自の交通史を紹介できればと考えています。

## 駅弁掛け紙　紙上展覧会

駅弁の名称は、「駅売り弁当」、「駅弁当」の略称が愛称化されたもので、駅構内で販売される弁当のことです。明治18年(1885)、宇都宮駅で竹の皮包みの握り飯を販売したのが最初と言われています。三島・沼津で最初に駅弁を販売したのが桃中軒です。ここでは株式会社桃中軒及び郷土史家・関守敏氏の協力を得て、懐かしい駅弁の掛け紙(包み紙)を紹介します。

うなぎめし
(昭和43年)

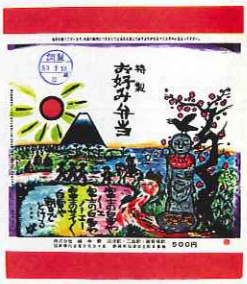
うなぎめし
(平成元年)

カツライス

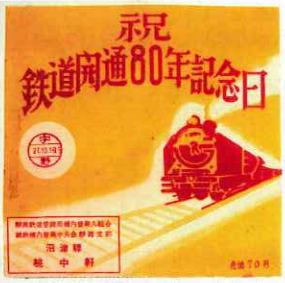
特製お好み弁当
(昭和50年)

特製幕の内弁当

特製お寿し




特製お好み弁当
(昭和44年)




祝鉄道開通80周年記念弁当
(昭和27年)

祝丹那トンネル開通記念弁当
(昭和9年)

## ふるさと講座　チンチン電車の跡をたずねて　開催報告

**●開催日時　平成22年1月30日(土)9:00～12:00　●参加者数　21名**

今回のふるさと講座は、富士・沼津・三島3市博物館共同企画展「レール&ロード」にあわせ、「チンチン電車の跡をたずねて」と題して開講しました。明治 39 年から昭和 38 年まで 57 年の長きにわたり三島の人々を運び続けた通称チンチン電車は、発車・通過の際にチンチンと鐘を鳴らしたことから沿線の人々には「チンチン電車」として親しまれてきました。単線軌道のため途中の山王前、黄瀬川、玉井寺(ぎょくせいじ)前に電車の交換所がありました。しかしながら、昭和 36 年に集中豪雨で黄瀬川橋が流失すると広小路からの折り返し運転となり、また折からのモータリゼーションの到来と重なり昭和 38 年 2 月 5 日惜しまれつつ廃止となりました。今回は沼津・下石田から広小路の三石神社まで約4 km の線路跡を辿りながら、同時に沿線にある名所旧跡なども訪ね歩きました。

黄瀬川橋

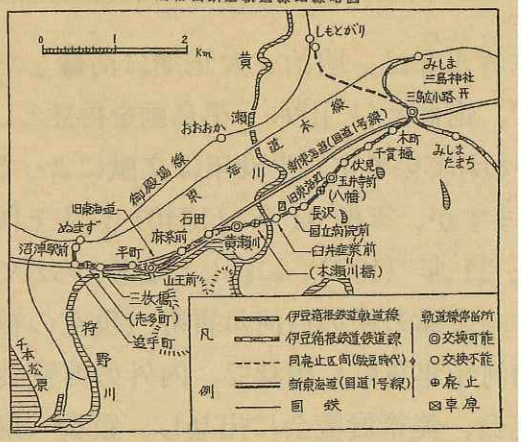
玉井禅寺前

見学コース　石田(沼津市下石田)→黄瀬川→黄瀬川橋→長沢(清水町)→玉井禅寺前→伏見→千貫樋→加屋町→広小路…→三石神社前

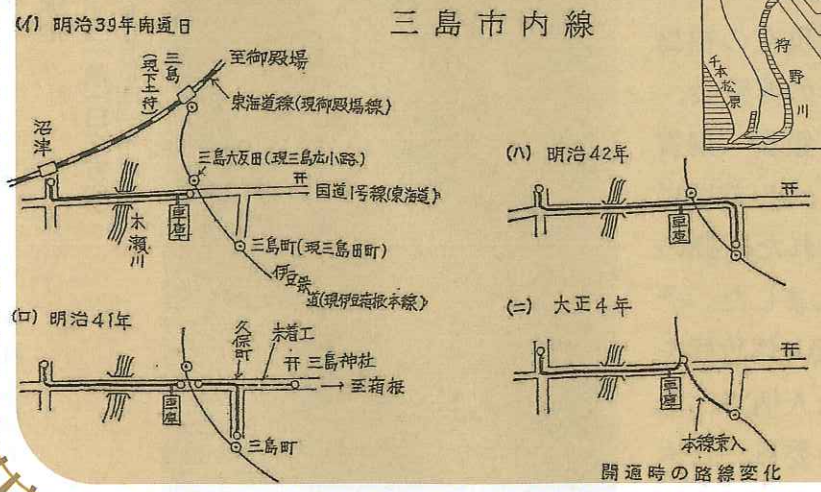
## チンチン電車の路線について

ここでは伊豆箱根鉄道株式会社から提供いただきました軌道線（チンチン電車）に関わる路線図及び三島市内における変遷図を掲載します。

伊豆箱根鉄道軌道線路線略図




三島市内線




開通時の路線変化

←本図を見ると、明治41年には久保町を経て三島町(現三島田町)まで延びていた事が分かります。また、大正4年には駿豆線に乗り入れていた様子も示されています。

## 平成21年度 第2回郷土資料館運営協議会

●平成21年12月22日(火)13:30～　●三島市郷土資料館　会議室　●出席者　10名(欠席1名)

郷土資料館には館の円滑な運営を図るため、郷土資料館運営協議会が設けられています。平成21年度の第2回郷土資料館運営協議会は、任期（2年）満了に伴う委員の改選を受け、下記の委員に対し委嘱状交付が行われました。また委員長・副委員長については委員間の互選により、委員長には迫田信行委員が、副委員長には山田益美委員が選出されました。今回任命された委員の方々には平成23年までの2年間、郷土資料館の運営等について貴重な意見や助言をいただき、それらの意見を参考にしながら少しでも館の資質向上に役立てていければと考えています。

委嘱状交付の様子

任期：平成21年12月10日～平成23年12月9日

| No. | 区　分 | 氏　名 |
|---|---|---|
| 1 | 委員長 | 迫田　信行 |
| 2 | 副委員長 | 山田　益美 |
| 3 | 委員 | 諏訪部敏之 |
| 4 | 委員 | 井出多美子 |
| 5 | 委員 | 原　知信 |
| 6 | 委員 | 加藤　雅功 |
| 7 | 委員 | 矢田部てるみ |
| 8 | 委員 | 渡邉　時子 |
| 9 | 委員 | 小田　りつ |
| 10 | 委員 | 近藤　辰哉 |
| 11 | 委員 | 小松　康純 |

（順不同・敬称略）

## 所蔵品紹介

佐竹永邨（さたけえいそん）は、明治・大正期に活躍した画家で、南画とくに山水・花鳥画を得意としたといわれています。生没年は文献によって異なりますが、天保11年（1840）に生まれ、大正11年（1922）に没したと考えられています。会津若松の白河年貢町（現在の福島県白河市年貢町）出身で、内外の博覧会、共進会、美術展覧会に出品し、銀賞・銅賞などを受賞し大いに活躍しました。25歳頃に江戸に出て、法橋（ほっきょう）・法眼（ほうげん）に叙された同郷の佐竹永海（えいかい）（1803～74）に師事しました。その画才を認められ、師の二女を娶り佐竹姓を名乗って分家しています。温厚な人柄で、画壇の信望も厚く、日本美術協会委員、日本画会委員などを歴任しました。

未調査絵画資料より

**色紙　山水画　佐竹永邨筆**

紙本淡彩　23.1×17.3cm

夜雪明
玄几寒
風入縕袍
「千」「畝」白文方印
「佐竹信印」朱文円印

夜雪玄几明ルク
寒風縕袍ニ入ル

## 特別寄稿 「伊豆循環鉄道」桜井祥行（伊豆の国市文化財保護審議委員）

伊豆半島の鉄道の歴史を紐解いてみると、それは鉄道を利用して伊豆半島内のどこへでも行けるようにしようという運動の歴史でもあります。

まずそれは、明治22年(1889)の東海道線敷設にありましたが、この時はトンネル(隧道)工事技術がまだ未熟のため丹那隧道を建設することができず、現在の御殿場線を東海道とせざるをえませんでした。このため伊豆に入るには鉄道では沼津からで、それ以外は徒歩又は船を利用するしかありませんでした。

やがて明治32年(1899)に伊豆箱根鉄道(当時は豆相鉄道)が、三島駅(現下土狩駅)から大仁駅まで開通するに及び、多くの温泉湯治客が訪れ、中伊豆地域への観光客が増えていきました。

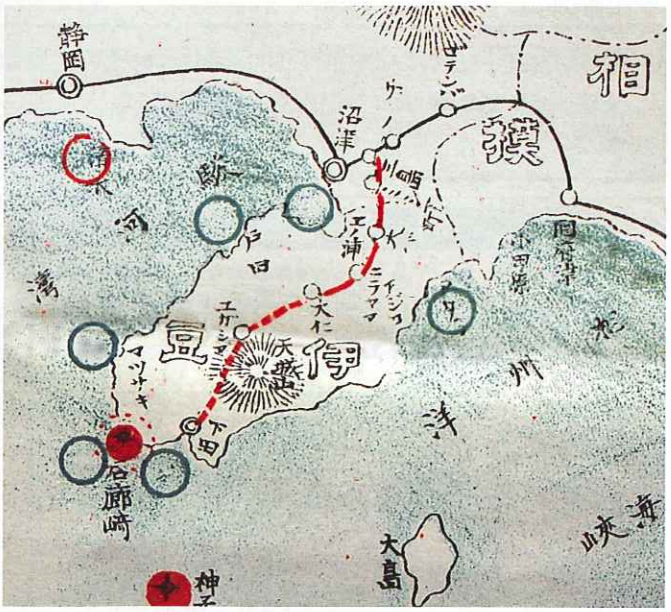
この影響を受けて、当時賀茂郡会議長だった依田佐二平は田方郡会にも呼びかけ、伊豆箱根鉄道の終着駅である大仁駅から天城山まで線路を敷き、そこからトンネルとし、更には河津、稲梓から下田に至る「伊豆国下田鉄道」敷設を構想しました。すぐにこの案は賀茂郡と田方郡の有志たちのもと、衆議院・貴族院両議長あてに請願されました。請願の理由はもちろん下田を含めた賀茂郡の発展を願ってのものでしたが、表向きは軍事鉄道とし、伊豆七島と下田からの運輸を訴えました。しかしながらこの請願書は衆議院では参考程度、貴族院では軍事上重要路線として採択すべきとの判断で、結果的には据置きされました。

その後大正10年(1921)、政府の鉄道敷設法案提出の際に、伊豆循環鉄道計画が盛り込まれ、熱海を基点に伊東、下田、松崎、湯ヶ島、大仁と半島を一周する案が出され、以後この伊豆循環鉄道の建設に向けて運動が推進されていきます。そして昭和13年(1938)に熱海～伊東線が開通し、熱海、伊東は東京の奥座敷として人々の往来が盛んになりました。

戦後になって改めて伊豆循環鉄道敷設促進に関する請願が衆議院を通過し、昭和36年(1961)に伊豆急行により熱海～下田間が開通します。この時の請願要旨は、もはや軍事利用ではなく、観光事業発展・育成のための鉄道建設としてまとめられています。

こうして伊豆半島への窓口は熱海駅から下田駅へ、三島駅から修善寺駅へと東伊豆、中伊豆への鉄道路線が敷かれ今日に至っています。依田佐二平が夢見た「伊豆国下田鉄道」は東伊豆の海岸線は鉄道が通るようになり、下田から松崎、湯ヶ島への線路はかないませんでしたが、近年の車社会の影響で伊豆縦貫自動車道建設が進められ、沼津や三島と下田との時間的距離が大きく縮まろうとしています。

しかし天城山にトンネルを作って、三島から下田を鉄道化しようとした明治時代の人々の気概は学びたいものです。



「矢田家文書」(伊豆の国市)より

# 刊行物近刊のお知らせ

**『三島宿関係史料集』第４集　「官軍御方御用留」(慶応4年)**

幕末に起こった鳥羽伏見の戦いの後、薩摩・長州を主体とした官軍（新政府軍）が東征する際に三島宿にも様々な変化をもたらしました。本書には幕末期の動乱の様子や三島宿の様子が収載されており、まさにこの頃の三島宿の様子を窺うことのできる貴重な資料です。

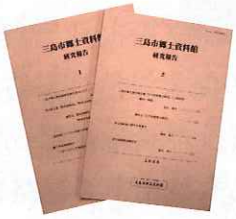
**『三島市郷土資料館研究報告３』**

［所収予定］

「増補暦略註」翻刻と解題　（鈴木隆幸）

宋淵老師の海外布教について（渡邉美幸）

未調査絵画資料の中間報告　（田中之博）



# 寄贈資料紹介

平成21年11月～12月にかけて次の方々から寄贈のご協力をいただきました。ありがとうございました。

（敬称略）

小林　豊氏　三島市

・「石油コンビナート進出反対」たすき　1点

三久保美知子氏　三島市

・丹那トンネル開通ポストカード　3点

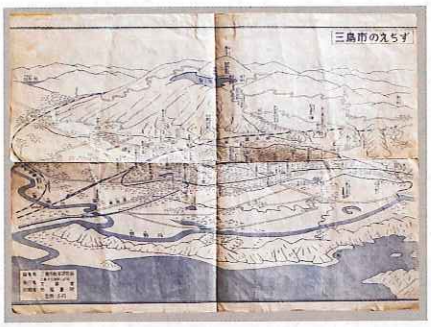
・三島市の絵地図　1点

その他

・映写機　TOEI TALKIE 8M　1点

・フィルム　8㎜　5点

・磁気テープ　2点




三島市の絵地図

たすき

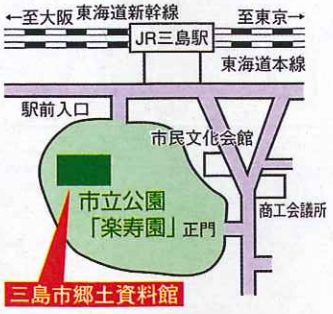
**【編集後記】** 新年早々、1月に起きたタヒチの地震災害のニュースは世界的に大きな衝撃を与えました。ここ静岡も東海地震がいつ起きても不思議でない状況。多くの来館者に安心して郷土の歴史や文化に親しんでいただくため、より一層地震に対する備えに努めなければと思う今日この頃です(Y.T.)

## 利用案内

**●休館日**
毎週月曜日
(祝日の際は翌日)
12月27日～１月２日

**●開館時間**
午前９時～午後５時
(４/１～10/31)
午前９時～午後４時30分
(11/１～３/31)

**●入館無料**
(ただし、楽寿園入園の際に有料)




●三島駅(南口)から徒歩５分。
市立公園楽寿園内

**郷土資料館だより**　vol.32　No.3　(第96号)

発行日　平成22年（2010）３月15日
(年３回発行)

編　集　三島市郷土資料館
〒411-0036
静岡県三島市一番町19-3　楽寿園内
TEL 055-971-8228
FAX 055-981-3730
E-mail：kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp
URL：http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/
発　行　三島市教育委員会